

幼少期～思春期のお子さんがある患者さんのケアについて



子供をもつ親が、がんになった時、それぞれ・・・

子どもに弱っているところを見せたくない。
子どもに心配かけたくない。
「治る？」って聞かれたら何て答えよう。
最近、すごく甘えてくるのは、
親が病気だからなのかな。
学校ではどうしているのかな。
どんなタイミングで話をすればいいんだろう。

子どもからは何も聞いてこない。でも、
察しているんじゃないかな。
ママの役割が出来るかな？
職場に話をした方がいいかな。
ママと子供をどう支えたら、いいのかな。

夫



ママ、今までと見た目や様子が違うなあ・・・なんでかな？
大丈夫かな？ ママ、元気になるよね・・・。
なんで薬を飲んでのに、元気がならないの？
入学式は来られるの？ お弁当は誰が作るの？
私のことキライなの？
私が、なにか悪いことしちゃったかな・・・。

子供



患者

がんの治療は、それだけでも、大きなストレスとなりますが、患者さんに子どもがいらっしゃる場合、その負担はより大きくなると言われています。

また、子どもにとっても、親の病気は大きな出来事です。子どもは、病気のことを聞かされていなくても、普段とは違った家族の様子に気づいていると言われます。子どものストレス反応は、年齢、性格、環境などによって様々ですが、周囲のサポートを得ながら、子どもはその困難を乗り越えていく力を持っています。

患者さんができるだけ安心して療養生活を送ることができるよう、それぞれのご家族の状況に応じ、お子さんも視野に入れたご家族全体の支援が必要です。

子どもがいる患者・家族への必要なケア

各種パンフレットも活用します。

◎患者さんの子どもに関する気がかりに耳を傾けてみてください。

子どもへのかかわり方、気になる言動など、話を聞きながら、最善の支援体制と一緒に考えて、以下のようなアドバイスを医療者から行ってください。 ※パンフレット参考にできます(右参照⇒)

○どういう風に子どもに接したらいいでしょうか？

→「いつもどおり」を大切に。子どもの日常生活が守られることを大切にすることを親から子へ伝えるよう促しましょう。

(子どもの「いつもどおり」を守りつつ、親のためにしたいことを一緒に考える)

○子どもに病気のことを伝えた方がいいだろうか。

→子供に伝えるときに重要な情報提供をパンフレットを用いて行えることを患者に伝えましょう。

○子どもはどう感じているのだろう。

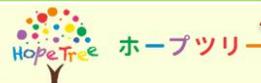
→子供の年齢や成長(発達段階)によって、子どもの年齢に応じた特徴とがんを伝える際の対応について、発達に応じて伝え方が違うことを伝えましょう。

○学校との連携

→必要に応じて子どもの日常生活を多面的にサポートしてもらえるように環境を整備した方がいいため、学校と連携した方が良いことをお伝えください。

○家族支援

→患者の役割を担う家族の心理的、社会的負担を軽減することも重要です。家族の状況(身体的、社会的、心理的背景など)を確認しましょう。



がんになった親の子供をサポートするための様々なプログラム



医療スタッフが支援に困ったら・・・

緩和ケアセンター
(内線：3219)は、
幼少期～思春期のお子さんがある
患者さんのケアをサポートします。

